

◆スクールポリシー

【グラデュエーション・ポリシー（育成をめざす資質・能力に関する方針）】

- ①自ら学び、考え、行動することができる豊かな自立した生徒を育成します。
- ②自己を見つめ個性を磨き、生涯にわたって夢や志の実現に挑戦する生徒を育成します。
- ③他者を思いやり、多様な人々と協働して学ぶ態度や豊かな表現力・発信力・コミュニケーション力を備えた生徒を育成します。
- ④課題解決に向けて積極的に取り組み、社会の形成に参画し貢献する生徒を育成します。
- ⑤多様な価値観を理解し、グローバルな視点で世界と向き合うことのできる生徒を育成します。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）】

- ①生徒一人ひとりの興味関心や進路に応じた多様な選択科目により、真の学力を身につける文理の枠を超えた学びを展開します。
- ②「産業社会と人間」「総合探究」「課題研究」を通して、自己の在り方・生き方を真剣に考え、表現力・発信力・コミュニケーション力を身につける学びを展開します。
- ③概ね7割以上の授業を習熟度別・少人数授業で実施し、基礎から応用への確かな学力の伸長と自己肯定感の高揚を目指すとともに、丁寧な進路ガイダンスを展開します。
- ④大学や地域等と連携し、社会課題の解決に向けた実践的な探究活動を展開します。
- ⑤海外修学旅行、短期語学研修の実施や海外姉妹校との国際交流事業を展開します。

【アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）】

- ①自ら考え、甘えを克服しようとする生徒を待っています。
- ②夢と志の実現に向け、仲間とともに高めあい、究めようとする生徒を待っています。
- ③日々の生活を大切にし、つねに新しく未来に生きようとする生徒を待っています。

A(4)・・・よくできた B(3)・・・できた C(2)・・・あまりできなかった D(1)・・・できなかった 評価基準 A>=3.4 B>=2.7 C>=2.0 D<2.0

| 領域   | 評価の観点     | 評価項目              | 実践目標と成果等 |      |                                                                     | 平均  | 評価 |
|------|-----------|-------------------|----------|------|---------------------------------------------------------------------|-----|----|
| 学校運営 | 開かれた学校づくり | 家庭や地域への情報発信       | 1        | 実践目標 | 学校のホームページ、ブログ、パンフレットを通じて、学校の情報を可能な限り公表する。                           | 3.0 | B  |
|      |           | 地域や関係機関と連携した学校づくり | 2        | 実践目標 | 地域や関係機関との連携を密にして、学校安全に関する情報を共有する。                                   | 3.0 | B  |
|      |           | 広報活動の推進           | 3        | 実践目標 | オープンハイスクール、中学校訪問、学校説明会などを通じて学校のPR活動を充実させる。                          | 3.3 | B  |
|      |           | 学校評議員制度の活用        | 4        | 実践目標 | 学校評議員会を複数回実施し、ご意見等を学校運営に反映させる。                                      | 3.0 | B  |
|      |           | 社会の変化に対する主体的な対応   | 5        | 実践目標 | グローバル化、情報化が進む社会の変化に対応し、主体的な取組を行う。                                   | 3.0 | B  |
|      | 生徒指導      | 生徒指導方針の確認と推進      | 6        | 実践目標 | 生徒指導方針の確認と指導体制の充実を図り、共通理解に基づく生徒指導を推進する。                             | 3.1 | B  |
|      |           | 生徒指導の充実           | 7        | 実践目標 | 挨拶、ベル着、頭髮、制服着用日等の指導を徹底する。                                           | 2.8 | B  |
|      |           |                   | 8        | 実践目標 | 学校いじめ基本方針の毎年の見直しを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を行う。                          | 3.2 | B  |
|      |           |                   | 9        | 実践目標 | 自転車通学時のマナー指導、遅刻指導を徹底する。                                             | 2.8 | B  |
|      |           | 生徒の内面理解を図る指導      | 10       | 実践目標 | 個人面談・各種調査を通して生徒理解を図るとともに、家庭への連絡や家庭訪問等を通して家庭との連携を図る。いじめ防止に学校全体で取り組む。 | 3.3 | B  |
|      |           |                   | 11       | 実践目標 | キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解に基づく指導について実践力を向上させる。             | 3.3 | B  |
|      |           | 生徒の自主性を育む指導       | 12       | 実践目標 | 文化祭、体育大会、球技大会を通して、生徒の自主・自律を育む。                                      | 3.1 | B  |
|      | 進路指導      | 進路指導体制の充実         | 13       | 実践目標 | 部活動への活発な参加と、安全指導・救急対応の適切な実施等を通して部活動の充実に努める。                         | 3.2 | B  |
|      |           |                   | 14       | 実践目標 | 3年間を見据えた進路計画を策定して、組織的、継続的な進路指導を行う。                                  | 3.3 | B  |
|      |           |                   | 15       | 実践目標 | 進路に関する情報提供を適切に行う。                                                   | 3.4 | A  |
|      |           |                   | 16       | 実践目標 | 模試の回数・内容を適切なものにし、面談等を通して自己実現を図る指導を行う。                               | 3.1 | B  |
|      |           |                   | 17       | 実践目標 | 進路室・閲覧室を充実させ、進路指導計画、補習・小論文指導の実施内容を適切なものにする。                         | 3.2 | B  |
|      |           | 進路意識の向上           | 18       | 実践目標 | 外部講師を活用した講演会、大学出前授業等により、生徒の進路意識を向上させる。                              | 3.3 | B  |
|      | 教職員の質の向上  | 実践的指導力の向上         | 19       | 実践目標 | 進路、生徒指導、保健、人権教育等、学校の諸課題について職員研修を実施する。                               | 3.3 | B  |
|      |           |                   | 20       | 実践目標 | 各教員が実践的指導力の向上に努めるべく、公開授業や研究授業を活用する。                                 | 3.1 | B  |
|      | 危機管理体制の整備 | 危機管理マニュアルの活用      | 21       | 実践目標 | 危機管理マニュアルの見直しを行い、その内容について職員が理解をし、危機管理意識の向上を図る。                      | 3.0 | B  |
|      |           | 校内安全対策の充実         | 22       | 実践目標 | 施設の安全点検や避難訓練や防災研修会等を行い、校内安全対策の見直し充実を図る。                             | 3.1 | B  |
|      |           | 救急時の対応力向上         | 23       | 実践目標 | 救急救命講習を職員や生徒に実施して、救急時に対応できる実践力の向上を図る。                               | 3.5 | A  |
|      | 学校運営      | 学校運営全般            | 24       | 実践目標 | 生徒会役員・学級委員を活用し、全校集会や式典を適切に実施する。                                     | 3.0 | B  |
|      |           | 国・県の事業活用          | 25       | 実践目標 | 本校が採択されているDX加速化推進事業やグローバルリーダー人材育成事業を活用して、学校教育の特色化に向けた取組を推進する。       | 3.0 | B  |
|      |           | PTCA活動            | 26       | 実践目標 | PTA、地域と学校の連携を円滑にする。                                                 | 3.2 | B  |
|      |           | 教育目標・経営方針の共有      | 27       | 実践目標 | 教育目標、学校経営、各年次・各部の目標の周知と理解を図る。                                       | 3.0 | B  |
|      |           | 機動的な校務分掌          | 28       | 実践目標 | 校務運営委員会、職員会議を適切に運営し、職員のアイデアを生かす。                                    | 3.0 | B  |
|      |           | 働き方改革の推進          | 29       | 実践目標 | 職員の勤務時間の適正化(定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デー等)を推進し、ワークライフバランスの実現を図る。             | 2.6 | C  |
|      |           |                   | 30       | 実践目標 | 安全衛生委員会を活用して、業務改善と職場環境の整備、メンタルヘルスの保持増進等を協議、推進する。                    | 2.8 | B  |
|      | 校内環境と保健   | 校内環境と保健           | 31       | 実践目標 | 掃除・大掃除・大緑化作業等を適切に実施する。                                              | 3.4 | A  |
|      |           |                   | 32       | 実践目標 | カウンセラーや通級指導担当教員と連携し、教育相談やケアを実施する。また保健室を適切に整備する。                     | 3.4 | A  |
|      |           |                   | 33       | 実践目標 | 保健だより等の発信により、心身ともに健康であるための正しい知識を身につけさせる。                            | 3.4 | A  |
| 教育課程 | 教育課程      | 指導方法の工夫           | 34       | 実践目標 | 多様な選択科目を用意し、科目選択の指導を適切に行うとともに、基本的な学習習慣が身につく指導をする。                   | 3.2 | B  |
|      |           | 学力向上の推進           | 35       | 実践目標 | 特別非常勤講師制度の活用や魅力アップ推進事業等の成果を継続的に活用し、確かな学力を向上させる。                     | 3.1 | B  |
|      |           | 授業の年間計画           | 36       | 実践目標 | 学習目標に基づいて年間計画を立て、それに沿って効果的に授業を行う。                                   | 3.2 | B  |
|      |           | 指導形態の工夫           | 37       | 実践目標 | 英語・数学等が習熟度別授業等を実施し、個に応じた指導や成績不振者への指導を適切に行う。                         | 3.3 | B  |
| 課題教育 | 課題教育      | 他国の歴史や文化の理解       | 38       | 実践目標 | 国際交流事業や授業を通して異文化理解を推進する。                                            | 3.1 | B  |
|      |           | 教職員の協働体制の確立       | 39       | 実践目標 | 「産社」「総学」「課研」の内容を充実させ、探究活動やその成果の表現技術を高める。                            | 3.1 | B  |
|      |           | 体験活動              | 40       | 実践目標 | 地域行事への参加や周辺各種学校との合同授業などで地域との連携をより充実させる。                             | 3.0 | B  |
|      |           | 学校行事              | 41       | 実践目標 | 野外活動や修学旅行等の学校行事を適切に計画し、実施する。                                        | 3.1 | B  |
|      |           | 人権教育の充実           | 42       | 実践目標 | 人権HＲと人権講演会を適切に実施し、人権尊重の精神を醸成する。                                     | 3.2 | B  |
|      |           | 情報モラルの育成          | 43       | 実践目標 | 生徒の情報モラルやマナーを向上させ、情報社会に潜む危険性について指導する。                               | 3.1 | B  |

|         |                                                                                                                                                                                                   |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校評議員評価 | 各分掌からの報告は具体的な数値を示したほうがわかりやすいと思う。情報図書部の報告に図書の貸し出し減があったが、生徒は短い言葉でやり取りが増えていることも原因にはあるのではない。じっくり読む力の育成をどうしていくかが大切となる。総合学科の教育の柱として同じ型を続けるだけでなく、変化に対応した総合学科の色を出して、考えていく必要性が求められている。                     |
|         | 学校評価を前回指摘したが、今回下がっている項目が多いことから先生方の熱心さの裏返しの結果と受けとめている。先をよくするための学校評価として活用いただきたい。英語力の必要性はこれまで以上に求められている。海外の学校とSSH校は交流などを積極的に行っている。                                                                   |
|         | 校長の考えを各年次が発信していてよいと思う。各年次で英語力のさらなる向上が必要となる。また、進路実現と各部の取組や様々なものが関係している。顕在していないものを生徒たちに伝えていく必要がある。今年度から始めたポスターセッションの導入など、これまでの行ってたことをどんどん更新していく取組を今後も継続してもらいたい。                                     |
|         | PTAに加入問題が取り上げられ、今後のあり方について検討していく必要がある。団体保険の加入制度など現在見直ししている。PTAの活動等はミマモルメなどを活用して、デジタルで配信し、負担を軽減していきたい。子どもが手紙などを保護者に渡さないケースもあると聞いているのであれば直接保護者に配信の方がよいのではないかな。障害を持った生徒についても人格の完成を目指し、これからも目指していきたい。 |
|         | インクルーシブ教育などを考え、今何が足りないかなどを生徒と考える議論を重ねることを大切にしてもらいたい。コミュニケーション力、中学校から伊丹北を推薦で希望する生徒の中に伊丹北の特色に興味を示している生徒も多いことは良いことだ。Teamsなどの活用やコミュニケーション能力の向上が求められている。リアルではできてもTeamsは苦手であるという生徒もいるのではないかな。           |